

事務事業名		住民票交付等窓口業務事業(三陸支所)				☐ 実施計画掲載事業		☐ 総合戦略掲載事業				
政策体系	政策名	017 自立した行政経営の確立				事業期間		予算科目				
	施策名	310 効率的で質の高い行政運営の推進						会計	款	項	目	事業
	基本事業名	011 成果重視の行政運営の推進				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成13 年度～) ☐ 期間限定複数年度【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01	02	01	01	00
根拠法令						事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(1～4以外)						
所属	部課名	総務部三陸支所										
	課長名	飯田 秀										
	係名	総務係	電話	0192-27-3111								
	担当者	舞良 重徳	内線	7101								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 三陸支所における住民票等の交付、印鑑証明の発行業務を行う業務。 主な業務内容は、次のとおり ①住民票、戸籍謄・抄本等の交付 ②印鑑証明書の発行 ③税務関係諸証明の交付 ④出生届け・死亡届などの受理 ⑤国民健康保険や国民年金等の受給資格関係届出の受理、保険証、受給者証等の交付 ⑥高額療養費等の申請書の受理 ⑦身体障害者手帳等の交付申請書の受理 ⑧簡易水道関係の各種届出受理 ⑨火葬許可証の発行 ⑩地区住民からの苦情等の連絡調整 事業費は、三陸支所における住民票交付等の事務執行に必要な消耗品、郵券の購入等の一般管理費用である。										全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標			(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)			名称 単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)			ア 申請に基づく住民票等の交付件数 件	
市民からの申請による住民票の交付、印鑑証明書の発行等			イ 印鑑証明書の発行件数 件	
今年度計画(今年度計画している主な活動)			ウ その他の諸証明の発行件数 件	
前年度と同様				
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等			(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民			名称 単位	
			カ 人口 人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)			キ	
三陸支所で市役所窓口業務を行うことにより、市民サービスの向上が図られる。			ク	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
市民の多様なニーズに的確に対応し、成果を出す。			名称 単位	
			サ 速やかに交付・発行された割合 %	
			シ 正確に交付・発行された割合 %	
			ス	

(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	674	621	762	861	861	861
			事業費計 (A)	千 円	674	621	762	861	861	861
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
			延べ業務時間	時 間	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
			人件費計 (B)	千 円	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
			トータルコスト(A)+(B)	千 円	10,674	10,621	10,762	10,861	10,861	10,861
⑤活動指標			ア	件	1,463	1,360	1,214	1,214	1,214	1,214
			イ	件	1,034	803	705	705	705	705
			ウ	件	954	871	872	872	872	872
⑥対象指標			カ	人	38,167	37,633	36,933	36,806	36,679	36,437
			キ		-	-	-	-	-	-
			ク		-	-	-	-	-	-
⑦成果指標			サ	%	100	100	100	100	100	100
			シ	%	100	100	100	100	100	100
			ス		-	-	-	-	-	-

事務事業ID	1567	事務事業名	住民票交付等窓口業務事業(三陸支所)
--------	------	-------	--------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
旧大船渡市との合併(平成13年11月15日)以来、三陸支所として業務を行っている。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
旧大船渡市との合併などにより、支所での諸証明発行等の窓口業務取扱量は減少傾向にあったが、震災以降、税及び税外収納の取扱いも含め増加していた。
ただし、震災に伴う自宅再建当の諸手続きが落ち着いたことなどにより、住民票や印鑑証明書等の取扱件数は減少傾向(震災前の状況)にある。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
窓口業務(住民票等の交付など)は、身近で手続きできることから、特に高齢者の方から利便性が高いと評価されている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 迅速かつ正確に事務事業を行うことは、市民の多様なニーズに的確に対応し、成果を出すことに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的は何か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 住民基本台帳法第3条に公共関与が規定されている住民票交付等の事務、戸籍法第1条及び地方自治法第2条第9項第1号に規定する第1号法定受託事務である戸籍業務を行っており、公共関与が妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象、意図とも現状では妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 各種研修会に参加し、職員の資質向上に努めるとともに、住民基本台帳事務の電算化により事務処理の正確性及び効率化が図られていることから、成果向上の余地はない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 支所、出張所の存続は、旧大船渡市との合併における協定項目であり、三陸支所での住民票等の交付を廃止した場合、住民の利便性の低下につながる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費用は、現状最小限の費用であり、これ以上の削減は難しい。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現状では職員2名と臨時職員1名で業務対応しており、これ以上の削減は難しい。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 証明書等の発行手数料を徴収していることから、受益者負担は適正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																					
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 現状どおり継続して事業を実施する。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	地域住民の利便性を考えると、統廃合や縮小は現実的ではない。また、必要最小限の職員数及び事業費で業務を行っており、これ以上のコスト削減は困難で、現状を維持していくことが妥当である。